

## ビンディン省の木材加工業の現況(2)

ビンディン省の木材加工業の現況(1)では、ビンディン林産物協会の活動について紹介したが、今回は、クイニョンに所在する主要な木製家具製造会社として3社を紹介する。

### 1. タンフォック株式会社

- 民間資本で1998年に設立され、従業員200人以上、工場7,000㎡を含む16,000㎡の面積を有する。
- 1999年以降、SGSの規約FSC-SHK-COC-001578に基づき、また、2006年からはBSCI-DBID16939に基づき、FSCtm認証木材の取引を実施している。
- 南アフリカ、パプアニューギニア、マレーシアから輸入した資材により、アウトドア用木製品の製造と輸出が専門である。
- 生産量は、月にコンテナ30個、年商は1,000万ドル以上で、そのうち輸出は400万ドル以上である。輸出先は主にEU、米国、オーストラリアである。
- 最近2年は世界的な景気後退の影響により、2020年に比べて受注が減少した。
- 日本から木材を輸入した実績はないが、将来、日本の木材資源の可能性に関心がある。ユーカリに相当する日本樹種があれば好都合である。今後、アジアに販路を広げる場合、日本の樹種に適した顧客が現れるかもしれない。

### 2. HDファニチャーグループJSC

- 2007年設立されたアウトドア用のテーブル、椅子、床材、その他の家具を製造する会社である。従業員は約200人で、フータイ工業団地に生産施設を有し、さらにニャンホイにも生産施設を建設中である。
- 原料はブラジル、シンガポール、マレーシアからのアカシア、ユーカリ、チークを輸入し、製品を欧米へ輸出している。現在の輸出額は年間約700万ドルである。
- 過去2年間、世界経済危機とロシア・ウクライナ戦争の影響で輸出が減少した。
- 日本の木材は認知しているが、当社はアウトドア用家具の製造を専門としているため必要性がなく、まだ使っていない。将来的には、顧客のニーズに合わせて技術を革新して、改良木材が必要とされる場合には、ユーザーの必要性に応え日本木材製品の注文が生じる可能性はある。

### 3. タインタムファーマニチャー合資会社

- 当社の前身は、2003年に設立されたピシコ木製家具合資会社である。ピシコ社は、熟練工を有し、アウトドア用の高品質のチーク材の家具を専門に扱う事業を開始し、輸出市場の需要の高まりに伴い、品質を維持しながら、欧米豪の顧客を大規模かつ柔軟な注文で満足させるために、徐々に着実に発展してきた。
- 2020年当初にはコロナの流行によって深刻な影響を受けたが、そのような状況の中でも、ピシコ

## ワールドウッドトレンド

社は困難や課題を克服して生産を安定させ、業界のトップにのぼりつめ、新たな高みへのブランドを確保した。

- 認証は、FSC CoC、BSCI、CTPAT、CITES等を取得している。
- 生産設備の面積は45,000 m<sup>2</sup>、工場能力は月に21～50コンテナで、常勤労働者400名（季節労働者も含め最大1,500名）を擁している。
- 主要製品は、アウトドア及びガーデン家具、オフィス家具、リビングルーム家具、ダイニングルーム家具、ベッド、子供用および保育園用家具等である。
- 販売先はベトナム国内のほか、海外市場として、米国、日本、中国、韓国、英国、カナダ、オーストラリア、フランス、ドイツ、台湾、マレーシア等に輸出している。2021年の輸出総額は1,200万ドルであった。
- 日本の木材としてヒノキ材が紹介されたが、当社の製品はアウトドア用の家具であり、欧米への輸出であるため、適しているとはいえない。将来、ニャンホイに第2号施設が完成して、価格が見合えば、日本産木材の輸入可能性があるのではないか。